

「心のスイッチは自分で入れろ！」を毎回の練習で伝えていきます。

～監督反省日記～

選手の動きが悪いときは、「指導者の説明不足」か「選手の体調不良」、「選手同士のトラブル」、「その他」など、選手のやる気が入っていないときがあります。指導者（大人）のいけないことの一つに「しゃべりすぎ」があります。選手の動きが悪いとき、大きな声で注意したり、説明が長くなったりとしてしまうことがあります。自分（達）で考える能力を身につけさせないといけないということが、現在のジュニアユースの課題です。

●最近の口癖は

「心のスイッチは自分で入れろ！」→やる気スイッチさんからのパクリ

「監督（大人）から言われないと、本気になれないの？」→監督の自作言語

「今、頑張らないでいつやるの？」→テスト前には、ご家庭でもあるのかと・・・

「指示待ち人間になってどうするの？」→指示を待っている時間が無駄ではないかな？

●これを変えて

「監督ノーコーチングです」→見守っているから、自分たちでやっごらん⇔やれてしまう

「コーチングは、●●君に任せた」→静かな選手が化ける⇔意外な選手の姿が見られる

「何分までに終わらせること」→終わらないとわかったら⇔「あと何分下さい」と伝える

「今日もかっこいいね！」→そんなにプレーが良くなくても、無理やり褒める⇔何で？と思う

最近のやり取りを思い出し、書き出して見ました。指導者特に監督の言葉というのは、選手の心に響くようです。褒めたときよりも、注意を受けた時の印象の方が強くなります。「言葉の力」（サッカーの言語力）を高め、指導者と選手、選手同士、保護者と指導者の関係もより深めていきたいと願っております。

～監督の未来予想図と選手への想い～

中学生は、高校生になるとアルバイトができます。当チームでも高校生コーチを募集していきます。現中学2年生から高校生になった時、フィグラーレでコーチングスタッフを希望している選手もいます。自分の教え子ですから、不採用はしません。ただ、その時のために今のうちに、大人として形成していくようにしております。もちろん、フィグラーレ以外の職場は沢山あります。高校生から仕事ができるということは、「成熟未成年」として様々な物事の判断が要求されます。「自分で考え」、「自ら実践する力」を養い、「率先して正しいことを行う」という、心の教育にも重点をおいています。同じ職場（サッカーや医療）でも将来、一緒に働くことができれば、嬉しいです。

そして、私たち指導者（大人）が、歳をとって介護が必要になったら、今の子ども（選手）にお世話されます。子ども（選手）から、恩返しされるように、心から願います。

～夏休みのジュニアユースの思い出予想図～

- 山梨県合宿 4泊5日 山梨県チームとの交流及びコンサルテ埼玉U13との合同合宿
- チーム内フットサル大会 4対4の対戦で1位を目指します！
- ビーチサッカー 千葉県海辺でのビーチサッカーと監督伝授のボディボードとサーフィン
- 福島県合宿 5泊6日 福島県チームと一年ぶりの再会と交流試合。観光も行い、地学も。
- 遠足（巨大プールへ）千葉県稲毛海浜公園プールにて1.5メートル水深で鬼ごっこ

山梨県と福島県合宿では、宿舎の方の配慮により、少人数で衛生に配慮して頂き、安全に行う事ができます。他の行事も実施できる事を願います。